

令和 4 年 6 月 20 日現在

機関番号：34428

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2021

課題番号：18K10594

研究課題名（和文）訪問看護ステーション機能の第三者評価基準作成—地域包括ケアを視点に—

研究課題名（英文）The functional assessment by the third party investigation on the visiting nursing station for community based integrated care system

研究代表者

後閑 容子（Gokan, Yoko）

摂南大学・看護学部・教授

研究者番号：50258878

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：地域包括ケアシステムにおける訪問看護の果たす役割は大きい。その第三者による機能評価は、訪問看護の発展に寄与するものである。訪問看護ステーション設置者、管理者などは、今後地域特性に対応した訪問看護ステーションの機能の充実に関心を持ち、特に、介護予防、在宅での終末期ケアなどに、訪問看護ステーションとして地域包括ケアにおける役割を持つと認識していた。文献レビューにより、地域包括ケアシステムに関連する評価項目について示唆を得た。

研究成果の学術的意義や社会的意義

訪問看護ステーションの地域包括ケアにおける役割と機能は、訪問看護ステーションの存在する地域特性に対応したものであり、多様な内容を含むものである。訪問看護ステーションの管理者が、地域特性を把握すること、地域機関と情報共有をすることなどは、重要である。訪問看護ステーションの地域包括ケアにおける役割と機能に関する評価指標の項目として、地域特性の把握、地域特性に対応した機能を持つこと、情報の共有など、一部に考えられる。COVID-19流行の影響を受けて、本研究はまだ十分な研究を遂行できていない現状である。

研究成果の概要（英文）：The visiting nursing have a major role in the community based integrated care system. The functional evaluation by the third party contributes to the development of visiting nursing. the visiting nursing station managers are interested in enhancing the functions of that correspond to regional characteristics. Furthermore, they understand that they have the role for the terminal care at home and preventive care of long term frailty. A literature review provided suggestions for criteria related to the community based integrated care system.

研究分野：地域看護

キーワード：訪問看護ステーション 評価 第三者 地域包括ケア

1. 研究開始当時の背景

超高齢社会において、在宅医療の拡大と充実、地域包括ケアシステムの確立は大きな期待が寄せられる。訪問看護においても、その役割と機能の更なる充実が期待される。特に、訪問看護ステーションは、それぞれの地域の保健医療福祉サービスの実情に対応した役割や機能を必要とする。例えば、都会では、医療機関をはじめ多くの保健医療福祉サービス機関がある。しかし、地方では、それらの数は少なく、訪問看護ステーションが唯一の保健医療福祉サービス機関であったりする。このような地方の場合、訪問看護ステーションも訪問看護の他に多様な機能、例えば、介護予防、家族のレスパイト対応、健康づくりなど、いわゆる、「街の保健室」機能を併せ持つ場合もある。訪問看護ステーションの地域包括ケアの機能は、地域の人々の QOL 向上や療養者および家族の療養生活の質に大きく寄与する。

さて、このような訪問看護ステーションの機能を客観的に把握し、データベース化し、多くの人々が利用することができるようなシステムはあるだろうか。病院機能評価はすでに公開されており、多くの人々がその情報を利用している。これは、医療の質保証や向上に寄与する。

我が国においては、訪問看護ステーション管理者の自己評価尺度、利用者および家族の満足度調査、経営管理的視点の自己評価尺度などを開発した研究がある（山口ら,2016; 柏木,2012; 柿沼,2015; 福井,2013）。訪問看護サービスの質を自己評価する尺度の開発（緒方ら,2014）等の研究がある。国や地方自治体では、介護保険制度における訪問看護ステーションの機能評価のデータを公開している。訪問看護ステーションの機能評価では、現在、介護保険制度で実施されて、主として福祉サービスの視点での評価に重点が置かれている。しかし、現状では、訪問看護ステーションは地域に密着した看護活動を含め、保健医療福祉の多岐にわたる活動を行っている。福祉のみならず、保健医療を含む看護の評価としては、現状の評価項目は十分な内容とは言えない。川越ら(2000)は、訪問看護の第三者評価基準を作成したが、この評価項目は、新たに地域包括ケアシステムを提唱されている現在においては、地域医療における看護の役割の視点の不足や質の評価として outcome の項目が少ないなど、改善の余地は大きい。

2. 研究の目的

本研究は、現在の社会的環境の変化に対応して、地域医療と地域包括ケアの視点を取り入れ、客観的であり、かつ、活用できる、訪問看護ステーションの機能の第三者評価モデルを開発することを目的とする。

3. 研究の方法

- (1) 訪問看護ステーションの機能評価に関する現状と課題を調査する。
- (2) 国内外の文献による調査項目の検討
- (3) 訪問看護師、医療機関看護師に対して、デルファイ法を用いた調査
- (4) 訪問看護ステーションの第三者評価の項目、必要なエビデンス資料、データベース化、評価実施体制などを検討する。

4. 研究成果

(1)訪問看護ステーションの機能評価に関する現状と課題を明らかにすることを目的に、訪問看護ステーション設置者、管理者、病院看護師（地域連携室）、医師らに、インタビュー調査を行った。その結果、現状と課題、第三者評価に関連する項目などの示唆を得た。

インタビュー調査日時：2018年7月及び2019年2月～3月

訪問看護ステーション設置者へのインタビュー調査結果

訪問看護ステーションの第三者評価の視点

満足度評価、

様々な加算の算定、どのような診療報酬を得ているかがある。例えば、機能強化型訪問看護ステーション・型には厳しい基準がある。（常勤者7名以上、看護師個別の研修計画、30%以上が入社3年目以上など）。大規模型が報酬がつく制度である。少人数だと研修ができない。医療と介護保険では診療報酬体系が異なり、制度が複雑である。

ステーションのタイプ（独立型 or 病院併設型 バックアップする母体の有無

病院併設型は連携の取りやすさがある。同じ法人で連携。

多様な施設との連携

医療機関の連携数 指示書を受ける医療機関が多い、本ステーションでは、40箇所。連携先としての居宅介護事業所など数の意味はある

介護職員連携強化加算対象（痰の吸引などと規定）は吸引などヘルパーに指導するのでないと加算はとれない。

事例検討会 振り返り

多職種での検討会を行っている、参加者は病院、介護職、ケアマネなど 医師は参加していない。日々の検討、振り返りも通常行っている

行政からの委託事業

地域の行政職との関係構築

医療機関の看護部長との関係構築 小児の連携が増えるなどの効果

薬剤師との連携は始まっている。医師、歯科医師の参加は難しい

在宅移行退院支援 在宅療養移行支援

在宅、病院、双方の現場を知り合う、同行訪問をするようになった

県立病院 看護協会なども連携 退院後の状況などを情報提供

終末期のアドバンスドケアプランニング 実施件数

つまり、基本となる訪問看護業務に加え、プラスアルファができているか

家族ケア

家族の会、グリーフケアなどの実施

本ステーションの看取り 年間40～50件 月4～5件

地域への啓発

コミュニティミーティング・ワークショップの開催

ステーションのアピールにもなる。年 4~5 回実施（例；介護保険制度について。

事例 当事者からの話、医師の話、DNR について）

ワークショップ（年 5~6 回実施 市より委託）

行政との連携、委託事業の状況

市の各担当者とコミュニケーションがとれてきた。コミュニティミーティングも 3 年目となり、説明的な内容だけでなく、意見交換が可能になった。

地域組織との関係、地域作りへの貢献

老人会とのワークショップ一緒にワークやレクリエーション

地域の団地 老人会と連携（30%高齢化率 子ども会はなくなった）

顔の見える関係（意見）昭和の良き地域作り必要

保健師とも違う、訪問看護師ができるつながり作り

地域包括支援センターとの連携

事例ごとに、認定申請、介護予防、研修会にも参加、会議では一緒になる

専門職教育

3 大学の在宅看護学実習を受ける

看護協会の教育課程研修受ける

現状は、看護職者以外の教育はない、リハ職の在宅実習は必修ではない。介護職もない。

新卒採用の有無

その他の多職種連携

栄養士との連携、以前は NST 研修会で交流。

ST との交流。嚥下予防などはニーズがある。

訪問看護ステーション管理者および病院看護師（地域連携室）へのインタビュー調査結果

評価の現状

㊦介護保険での介護保険サービス提供機関として認可を受けるための自己評価を提出している。しかし、看護の質評価ではない。

㊧利用者の満足度評価は時々実施している。

㊨訪問看護師の自己評価は行われているが、利用者に公開されていない。

地域包括ケアシステムと関連する訪問看護ステーションの活動評価の項目について

㊦事例検討会の開催回数、参加者の職種、所属など。地域の開業医、医療機関、リハビリテーション職種、ケアマネージャーなど各職種の参加状況。

㊧研修会の開催。家族介護者を対象とした研修会や集会、介護職を対象とした研修会の開催状況。

㊨自助グループ育成と支援に関する活動。地域包括センターとの連携と協力。

㊦地域の関連機関との連携の在り方。社会福祉協議会、地域包括支援センター、病院の連携室や退院支援室との連携の状況。連携の有無だけでなく内容が大切。

活動評価の indicator として考えられる項目

㊦看取りの事例数

㊧特別加算の獲得状況

㊨看護の質評価の指標、例えば、利用者・家族の満足度、在宅での褥瘡発生率、嚥下障害のある利用者の入院率、精神障害者の入院率、慢性疾患患者の入院率

㊩病院との連携の指標として、病院などで開催される研修会の参加率

㊪効率的な訪問看護として、範囲な地域の訪問で、移動時間、訪問時間の割合など。

地域中核病院医師へのインタビュー調査結果

経営、教育、連携の分野の項目

評価に、強、弱、改善の視点、量的評価の導入

ピア評価の信頼性、妥当性の確保、標準化が必要。

(2) 文献レビュー

訪問看護ステーションの第3者評価に関する文献レビューを行った。文献検索は、医学中央誌で、訪問看護、評価、地域包括ケア・地域包括ケアシステムを検索し、2017年から2022年とした。結果、原著論文は12あり、看護の質に関する論文7、地域連携に関する論文3、看護師の資格に関する論文1、将来の介護ニーズ予測に関する論文1だった。

これらの文献および福井氏の文献から、以下の示唆を得た。

福井小紀子；社会保険旬報、No.2545(2013.10.1)、訪問看護事業所の黒字化のための経営指標の提案、運営体制、管理体制、従業員体制、利用者状況、質管理状況、地域連携状況、経営状況などの調査項目から、訪問看護事業所の黒字化のためのいくつかの指標を示している。看護職員数、利用者数、給与比率、質管理、終末期ケアなどに加え、地域貢献活動や広域的な多機関との連携といった積極的な活動が事業所の運営の好循環を生むことを示した。

看護の質の評価、利用者満足度の調査などに関する文献から、評価指標の項目に関する示唆を得た。

地域連携、在宅医療と病院との連携における多職種連携会議などの運営では、目標や情報の共有、協働できるキーパーソンが存在などが関連している示唆を得た。

5. 引用文献

(1)福井小紀子、社会保険旬報、No.2545(2013.10.1)、訪問看護事業所の黒字化のための経営指標の提案

(2)尾形由紀子、山下清香、檜橋明子他、福岡県立大学看護学研究紀要、10(2)、53-63、地域在宅医療推進における保健所保健師の調整技術の検討、2013

(3)斎藤訓子、柏木聖代、日本プライマリー・ケア連合学会誌、Vol.41、No.3、p118-124、自治体の指導監督担当者による訪問看護ステーションの現状認識と質の評価の視点、2018

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	田中 結華 (Tanaka Yuka) (80236645)	摂南大学・看護学部・教授 (34428)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関